

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-138374

(43) 公開日 平成9年(1997)5月27日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 2 C	9/04		G 0 2 C	9/04
	7/08			7/08
	13/00			13/00

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平7-277679

(22) 出願日 平成7年(1995)10月25日

(71) 出願人 595151512

明雅眼鏡企業有限公司

台湾嘉義縣民雄鄉頂崙村104之1號

(71) 出願人 595151523

有限会社亜光商会

神奈川県横浜市中区日本大通り18 KRC

ビル

(72) 発明者 施 宏裕

台湾嘉義縣民雄鄉頂崙村104之1號 明雅

眼鏡企業有限公司内

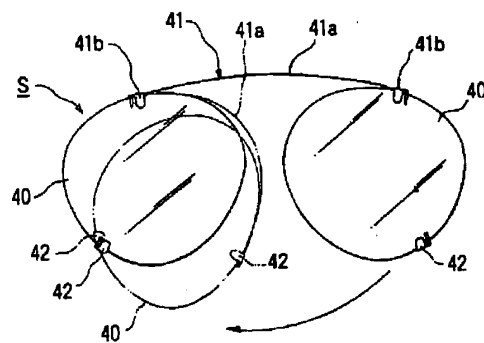
(74) 代理人 弁理士 中村 稔 (外8名)

(54) 【発明の名称】 眼鏡に装着して使用する補正又は矯正用グラス及びその組立て用治具

(57) 【要約】

【課題】 軽量で、折り畳むことができ且つ一緒に使用する眼鏡のイメージを損なうことのない、眼鏡に装着して使用する補正又は矯正用グラスを提供する。

【解決手段】 サングラスSは、眼鏡60のレンズ61とほぼ同じ形にカットされた左右一対の色付きレンズ40が連結片41によって連結されている。連結片41は、その左右方向に延びる細長い板状部分41aが常温で元の形に戻るよう、その変態温度が設定された形状記憶合金で作られている。連結片41は左右両端にレンズフック部分41bを有し、このレンズフック部分41bは、レンズ40の上縁にボルト45を用いて固定される。レンズ40の外側下角部には、フックピース42がボルト43を用いて固定される。サングラスSを眼鏡60に装着するときには、眼鏡60のレンズ61（より詳しくは眼鏡フレーム）にレンズフック部分41bおよびフックピース42に係止させる。眼鏡60から取り外したサングラスSは、連結片41を折り曲げて左右のレンズ40を上下に重ね合わせた状態にすることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 眼鏡使用者が使用している眼鏡のレンズとはほぼ同じ形状にカットされ、該眼鏡のレンズに対応する位置に配置される左右一対の補正又は矯正用レンズと、

前記眼鏡のレンズの上縁に沿って横方向にほぼ真っ直ぐに延びて前記一対の補正又は矯正用レンズを相互に連結する撓み変形可能な細長い連結部材と、

前記補正又は矯正用レンズの少なくとも上縁及び外側下角部の2か所に固定されて前記眼鏡と係合するフック部材とからなる、眼鏡に装着して使用する補正又は矯正用グラス。

【請求項2】 外力が加わっていないときの前記連結部材の原形が上方に向けて若干凸をなす弓形に湾曲した形状を有する、請求項1に記載の補正又は矯正用グラス。

【請求項3】 前記連結部材が、常温で元の形に戻るようにその変態温度が設定された形状記憶材料で作られている、請求項1又は請求項2に記載の補正又は矯正用グラス。

【請求項4】 前記フック部材のうち、前記補正又は矯正用レンズの上縁に固定される第1のフック部材が、前記連結部材と一体に作られている、請求項1ないし請求項3のいずれか1項に記載の補正又は矯正用グラス。

【請求項5】 眼鏡使用者が使用している眼鏡のレンズとはほぼ同じ形状にカットされ、該眼鏡のレンズに対応する位置に配置される左右一対の補正又は矯正用レンズと、

前記眼鏡のレンズの上縁に沿って横方向にほぼ真っ直ぐに延びて前記一対の補正又は矯正用レンズを相互に連結する撓み変形可能な細長い連結部材と、

前記補正又は矯正用レンズの上縁にボルト固定され、前記眼鏡と係合する第1のフック部材と、

前記補正又は矯正用レンズの外側下角部にボルト固定され、前記眼鏡と係合する第2のフック部材とを有し、

前記第1のフック部材が前記連結部材の両端に一体に形成されてなる、眼鏡に装着して使用する補正又は矯正用グラスを組み立てるための治具であって、

前記連結部材の全長と等しいか又はそれよりも若干短い長さ寸法を有する細長いブリッジと、

該ブリッジの両端に夫々設けられ、前記補正又は矯正用レンズの厚さに対応する幅寸法の溝を作る一対の片と、該片に設けられ、前記第1のフック部材を前記補正又は矯正用レンズの上縁に固定するためのボルトの位置に対応する位置に形成された孔と、

前記ブリッジよりも短い長さ寸法を備えると共に該ブリッジの長手方向中間部分に対応する位置で該ブリッジと平行に延びる位置決めバーと、

前記細長いブリッジおよび前記位置決めバーの長手方向中間部分を相互に連結するベースと、

該ベースに取付けられ、前記眼鏡の左右のレンズを解放

可能に把持するクリップと、を有することからなる補正又は矯正用グラス組立て用治具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、眼鏡に着脱自在に装着でき、眼鏡と一緒に使用されるサングラスなどの補正又は矯正用グラス及びこれを組み立てるための治具に関する。

【0002】

【従来の技術】社会が文明的になるほど、相対的に多くの文明病が発生している。色盲、遠視、近視などが典型的な例であり、これに対処するために、様々な補正又は矯正用レンズが開発されている。例えば、近視を例にとってみると、成人から学童に至るまで、近視の人の比率は相当に高く、したがって目の保護はかなり重要なこととなっており、特に、亜熱帯地域は、太陽の紫外線は強烈で、往々にして眼を刺激して障害をもたらすことがあり、現在ではサングラスを用いて眼を保護するようにしている。

【0003】ところで、眼鏡を装着している者を対象に、眼鏡に対して着脱自在なサングラスが出現している。この種のサングラスのうち、サングラスにフック構造体を設け、このフック構造体を用いて、眼鏡フレームにサングラスを掛止して使用するものなどが知られている。

【0004】図10および図11は典型的な従来のサングラスを示す。図10はサングラスの分解斜視図であり、図11は眼鏡にサングラスを装着した状態を示す。従来のサングラス10は、主として、レンズ本体1と、サポートフレーム2と、ピンチフレーム3とで構成され、レンズ本体1は、左右一対の2枚のレンズ11と、これら左右のレンズ11、11を連結するコネクティングロッド12とで構成されている。

【0005】サポートフレーム2は、合成樹脂製の一体成形品で、左右方向中央部に前方に向けて延びるクリップブロック21を有し、このクリップブロック21によってレンズ本体1のコネクティングロッド12にクリップされる。サポートフレーム2は、また、左右方向に延びて眼鏡フレームと接触するストップバー22と、下方に延びて眼鏡レンズと接触するクリップバー23と、後方に延びてピンチフレーム3を受け入れる接続ベース24とを有する。

【0006】ピンチフレーム3は、押さえベース31と、ピンチバー32と、振じりコイルばね33とを有し、ピンチバー32は略M字形の形状を呈し、かつ、押さえベース31をピンチバー32と連結し、ピンチフレーム3をサポートフレーム2の接続ベース24に置く。振じりコイルばね33によってレンズ本体1のコネクティングロッド12を押さえ付け、サポートフレーム3のクリップブロック21と協働しレンズ本体1の回転を制

限することができ、同時に、振じりコイルばね33を利用してピンチバー32の開閉を制限する。

【0007】以上の構成により、押さえピース31に外力を加え、押さえピース31によって振じりコイルばね33を回転させ、振じりコイルばね33をピンチバー32と連動させて外側に回転させ、サングラス10を眼鏡20の上に置き、サポートフレーム2のストッパー22を利用してフレームを支え、更に、ピンチバー32を付勢する振じりコイルばね33の力を利用して眼鏡レンズの前側から挟み込みことによってサングラス10を眼鏡20に固定する(図11参照)。レンズ本体1のコネクティングロッド12は振じりコイルばね33によってサポートフレーム2のクリップブロック21の上に制限されている。したがってサングラス10を使用しない場合には、レンズ本体1を外側に回転させることができる。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】本件発明者は、眼鏡業界で長年製造に携わって蓄積した経験を経て、在来のサングラス、特に眼鏡に装着して使用するサングラスには次の問題が存在することを発見した。

【0009】第一に、長期間眼鏡を着用している者は、眼鏡を長時間着用しているだけで、鼻梁に大きな負荷を感じているのが通常である。このため、鼻梁と直接接触する眼鏡のサポートピースに例えばスポンジのような弾性体を貼着して快適性を高めるようにしたものも存在している。在来のサングラスは、数多くの部品で構成され、また、部品それ自体もかなりの重量を有しているため、眼鏡と組み合わせると、鼻梁に加わる負荷が増大するという問題を有している。

【0010】第二に、在来のサングラスは、一般的に折り畳むようにはなっておらず、携帯するのに不便であった。また、構成部品の構造が比較的複雑であるため、故障する恐れがあり、故障した場合には修理も容易でない。

【0011】第三に、眼鏡のフレーム形状つまりレンズの形状は、種々様々な眼鏡フレームの中から着用者の好みによって選択される。これに対して、在来のサングラスのレンズ形状は、その種類が少ないことから、眼鏡のレンズと一致するのが稀であり、このため、サングラスを装着すると、折角選択した眼鏡のイメージを台無しにしてしまうという欠点を有していた。また、サポートフレーム、クリップバーなどは眼鏡フレームの外側に露出するため、形態的に、必ずしも好ましいものではない。

【0012】本発明の目的は、このような問題点を解決することのできる補正又は矯正用グラスを提供することにある。本発明の他の目的は、本発明の補正又は矯正用グラスの組立ての際に用いるための治具を提供することにある。

【0013】

【課題を達成するための手段および作用】かかる技術的課題を達成すべく、本発明のうち補正又は矯正用グラスにあつては、眼鏡使用者が使用している眼鏡のレンズとほぼ同じ形状にカットされ、該眼鏡のレンズに対応する位置に配置される左右一対の補正又は矯正用レンズと、前記眼鏡のレンズの上縁に沿って横方向にほぼ真直ぐに延びて前記一対の補正又は矯正用レンズを相互に連結する撓み変形可能な細長い連結部材と、前記補正又は矯正用レンズの少なくとも上縁及び外側下角部の2か所に固定されて前記眼鏡と係合するフック部材とからなる構成を採用してある。

【0014】本発明の補正又は矯正用グラスによれば、その構成要素が、単に、左右一対のレンズと、これを連結する連結部材と、各レンズに対して少なくとも2つのフック部材とで構成されていることから、従来に比べて比較にならない程、軽量である。また、フック部材を眼鏡から外すことで、補正又は矯正用グラスを眼鏡から分離することができ、また、撓み変形可能な連結部材を曲げることで補正又は矯正用グラスを小さく折り畳むことができ、折り畳んだ後の補正又は矯正用グラスの最もコンパクトな形である左右のレンズが上下に重なった状態にすることも可能である。

【0015】また、本発明の補正又は矯正用グラスに使用する左右一対のレンズは、眼鏡使用者が使用している眼鏡のレンズとほぼ同じ形状にカットされていることから、眼鏡と一緒に使用しても、これによって眼鏡の持つイメージを損なう恐れは、従来に比べて比較にならない程小さい。

【0016】本発明の補正又は矯正用グラスに組み込まれる左右一対のレンズとしては、色盲或いは色弱矯正用レンズ、遠視用レンズ、偏光レンズ、色付きレンズなどであり、本発明は、典型的には、サングラスに適用される。

【0017】本発明の補正又は矯正用グラスの好ましい態様としては、眼鏡に対する補正又は矯正用グラスの保持性を確実にするために、外力が加わっていないときの前記連結部材の原形が上方に向けて若干凸をなす弓形に湾曲した形状であるのが好ましい。

【0018】連結部材の素材として、形状記憶材料、例えばニッケルチタン形状記憶合金を採用するのが、長期の耐久性を高めるために、特に好ましく、この場合、常時、復元力を発揮させるために、常温で元の形に戻るようにその変態温度が設定された形状記憶材料であるのが好ましい。また、構成要素の部品数を少なくするために、前記フック部材のうち、前記補正又は矯正用レンズの上縁に固定される第1のフック部材が、前記連結部材と一体に作られていてもよい。

【0019】また、本発明のうち、補正又は矯正用グラスの組立ての際に用いるための治具にあつては、眼鏡使用者が使用している眼鏡のレンズとほぼ同じ形状にカッ

トされ、該眼鏡のレンズに対応する位置に配置される左右一対の補正又は矯正用レンズと、前記眼鏡のレンズの上縁に沿って横方向にほぼ真直ぐに延びて前記一対の補正又は矯正用レンズを相互に連結する撓み変形可能な細長い連結部材と、前記補正又は矯正用レンズの上縁にボルト固定され、前記眼鏡と係合する第1のフック部材と、前記補正又は矯正用レンズの外側下角部にボルト固定され、前記眼鏡と係合する第2のフック部材とを有し、前記第1のフック部材が前記連結部材の両端に一体に形成されてなる、眼鏡に装着して使用する補正又は矯正用グラスを組み立てるための治具であって、前記連結部材の全長と等しいか又はそれよりも若干短い長さ寸法を有する細長いブリッジと、該ブリッジの両端に夫々設けられ、前記補正又は矯正用レンズの厚さに対応する幅寸法の溝を作る一対の片と、該片に設けられ、前記第1のフック部材を前記補正又は矯正用レンズの上縁に固定するためのボルトの位置に対応する位置に形成された孔と、前記ブリッジよりも短い長さ寸法を備えると共に該ブリッジの長手方向中間部分に対応する位置で該ブリッジと平行に延びる位置決めバーと、前記細長いブリッジおよび前記位置決めバーの長手方向中間部分を相互に連結するベースと、該ベースに取付けられ、前記眼鏡の左右のレンズを解放可能に把持するクリップと、を有する構成を採用してある。

【0020】このような治具は、眼鏡使用者が使用している眼鏡のレンズとほぼ同じ形に左右一対の補正又は矯正用レンズをカットした後に用いられ、カット済みのレンズは、本発明の治具によって、眼鏡のレンズに対応する位置に位置決めされる。すなわち、ブリッジの各端の一対の片で作られた溝にカット済みのレンズが嵌合され、また、治具はクリップを用いて眼鏡に装着される。この治具の位置決めつまり眼鏡の中央に治具を位置決めするには、位置決めバーの両端を眼鏡のフレームに係合させながら行うことができる。

【0021】このようにして治具を位置決めしたならば、ブリッジの両端の片に設けられた孔を通して刃物で補正又は矯正用レンズに傷を付け、その後治具を眼鏡から取り外すと共に治具から補正又は矯正用レンズを取り外す。そして、このレンズに付けた傷を目印に雌ネジを切り、この雌ネジを利用して、補正又は矯正用レンズの連結部材と一体な第1のフックをボルト止めすることができ。

【0022】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の好ましい実施例を添付の図面を参照して説明する。図1は、実施例のサングラスの構成部品を示す。実施例のサングラスは、一組の色付きレンズ40（図1の（C））と、左右のレンズ40を連結する連結片41（図1の（A））と、各レンズ40の角部に夫々1個づつ固定される一組のフックピース42（図1の（B））とで構成され、後に詳しく

説明するように、眼鏡店で、これを購入する者の眼鏡に適合するサングラスとなるように組立てられる。

【0023】レンズ40は、同図に示すように円形の形状で眼鏡店に供給され、各眼鏡店は、購入者が提示した眼鏡のレンズ、より詳しくはフレームと同じ形にカットする。勿論、各眼鏡店には、複数種類の色のレンズ40を品揃えし、サングラスの購入を希望する者は、好みの色を指定すると共に、サングラスと一緒に使用する眼鏡を提示する。購入者が提示する眼鏡は、一般的には、実際に着用している眼鏡であろう。

【0024】連結片41は、図1の（A）から理解できるように、細長い板状部分41aの両端に、必ずしも必須ではないが、レンズフック部分41bを備えている。板状部分41aは、ばね性と十分な撓み性を備えた素材で作られており、具体的には、ニッケル-チタンの形状記憶合金で作られ、この形状記憶合金は、常温で元の形に戻るように、その変態温度が設定されている。この細長い板状部分41aの原形つまり外力が全く加わっていないときの形状は、図1の（A）から分かるように上方に向けて若干凸をなす弓形に湾曲した形状である。また、この細長い板状部分41aは図中符号L1で示す全長を有する。レンズフック部分41bについては後に説明する。

【0025】フックピース42は、レンズ40の厚さ寸法と同一の幅寸法WのU字溝部分42aと、U字溝部分42aの底から外方に延びる爪片42bとを有し、U字溝部分42aには、ボルト43が螺合されている。爪片42bには、クッション材としての柔軟なプラスチック性チューブ44が挿入されている（図6の（A）参照）。このフックピース42の構成と同じ構成が上述したレンズフック部分41bで採用されている。レンズフック部分41bのU字溝部分を参照符号「41c」で示し、爪片を参照符号「41d」で示し、ボルトを参照符号「45」で示し、柔軟なプラスチック性チューブを参照符号「46」で示す（図5の（A）参照）。

【0026】図2は、サングラスを組み立てる際に用いられる治具50を示し、（A）は治具50の正面図であり、（B）は治具50の背面図である。治具50は、左右方向に真直ぐに延びるブリッジ51を有し、この全長L2は、前述した連結片41の細長い板状部分41aの全長L1と等しい長さ寸法であるのが好ましいが、L1よりも若干短くてもよい。ブリッジ51は、その両端に、夫々、連結片41のU字状溝42aと同一の形状の溝を作る一対の片51aを有し、これら一対の片51aには孔51bが形成されている。この孔51bは、上述したボルト45と対応する位置に配置されている。

【0027】治具50は、ブリッジ51の後方に配置された位置決め機構52を有する。位置決め機構52は、ブリッジ51の中間部分に位置するベース53と、ベース53から左右方向に延び且つブリッジ51よりも相対

的に短い長さ寸法の位置決めバー54と、ベース53の左右両端から下方に延びる左右対のクリップバー55とを有し、これらの要素53、54、55は合成樹脂で一体に作られている。

【0028】ベース53には、また、全体としてコ字状に折り曲げられた金属製のピンチバー56がクリップバー55と対向して配置され、このピンチバー56は、振じりコイルばね57によって、クリップバー55に向けて付勢されている。また、ピンチバー56には、上方に延びる操作レバー58が一体的に連結されている。

【0029】次に、眼鏡店で行う組立作業を図3ないし図6を参照して説明する。まず、購入者の眼鏡60のレンズ61、より詳しくはレンズ61を囲むフレームと同じ形にレンズ40をカットする。次に、眼鏡60に治具50を取付ける。この取付けは、操作レバー58を押してピンチバー56を揺動させ、ピンチバー56とクリップバー55との間に眼鏡60を挿入し、その後、操作レバー58から手を離してピンチバー56とクリップバー55とで眼鏡60を挟み込む(図4参照)。次に、治具50が眼鏡60の丁度真中に位置するように治具50を位置決めする。この位置決め作業は、位置決めバー54の両端を夫々眼鏡のフレーム60aに当接させながら行う。図3は、治具50の位置決めが完了した状態を示す。

【0030】次に、ブリッジ51の片51aで形成されたU字状溝の中にレンズ40を嵌め込んで、このレンズ40の位置を眼鏡60のレンズ61と一致させた後に、片51aの孔51bを利用して刃物でレンズ40に印を付ける。

【0031】次に、眼鏡60から治具50およびレンズ40を取り外し、このレンズ40に連結片41およびフックピース42を取付ける作業を行う。まず、レンズ40に付けた印を目印に雌ネジを切る。また、レンズ40の外側下角部の適当な箇所にフックピース42を仮止めして、ボルト43が対応する箇所に印を付け、この印を目印に雌ネジを切る。これにより、レンズ40に連結片41およびフックピース42を取付けるための準備が完了し、次いで連結片41およびフックピース42をボルト45、43でレンズ40に固定する(図5及び図6の(B)参照)。その後、連結片41のレンズフック部分41bおよびフックピース42をレンズ40の周縁に係合させて眼鏡60にレンズ40を仮止めし、眼鏡60の厚みに合わせて、爪片41d、42bを適当に折り曲げる(図5及び図6の(C)参照)。

【0032】以上の作業を経て組立てられたサングラスSの最終的な形態を図7に示す。サングラスSを眼鏡60に装着するときには、連結片41の撓み性を利用して、連結片41のレンズフック部分41bおよびフックピース42をレンズ40の周縁に係合させる(図8参照)。ひとたび眼鏡60に装着されると、サングラスS

は、その連結片41の細長い板状部分41aが真っ直ぐに延びる形に強制され、これに伴って発生する元の形に戻ろうとする復元力によって、サングラスSの両方のレンズ40を互いに近づく方向に付勢し、この付勢力によって、サングラスSはガタつくことなく眼鏡60に保持させることができる。

【0033】眼鏡60から取り外すには、手で一方のレンズ40を他方のレンズ40から遠ざけるように操作することで、フックピース42が外れ、これによりサングラスSを眼鏡60から取り外すことができる。眼鏡60から取り外したサングラスSを収納するには、図9に矢印で示すように、一方のレンズ40を他方のレンズ40に近づけて、両方のレンズ40が上下に重なり合った状態にした後、一方のレンズ40のフックピース42に他方のレンズ40の周縁に係合させて、この重なり合った状態で固定することができる。同図は、サングラスSの折り畳み状態を示す。折り畳んだサングラスSは専用の眼鏡ケース70に納めて持ち運ぶのが携帯に便利である。

【0034】以上、本発明の補正又は矯正用グラスの好ましい実施の形態をサングラスを例に説明した。眼鏡との組合せのパターンとしては、次のような組合せ態様が考えられる。すなわち、(1)近視用眼鏡とサングラス或いは偏光グラス、(2)遠視用眼鏡とサングラス或いは偏光グラス、(3)近視用或いは遠視用眼鏡と色盲或いは色弱矯正用グラス、(4)素通眼鏡つまり単にガラス板を組み込んだ眼鏡との組合せなどである。また、本発明の補正又は矯正用グラスとして、所謂、老眼用レンズ、或いは乱視用レンズを組み込んだものであってもよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例のサングラスの構成部品のパーツ図面であり、(A)は連結片を示し、(B)はフックピースを示し、(C)は色付きレンズを示す。

【図2】実施例の治具を示すものであり、(A)は治具の正面図であり、(B)は治具の背面図である。

【図3】カット済みの色付きレンズを治具を用いて眼鏡に位置決めしている状態を示す一部切欠正面図。

【図4】図3のIV-IV線に沿った断面図。

【図5】連結片のレンズフック部分をカット済みレンズにボルト固定し(B)、その後、眼鏡の厚さに合わせて爪片を折り曲げる工程(C)を示す図。

【図6】フックピースをカット済みレンズにボルト固定し(B)、その後、眼鏡の厚さに合わせて爪片を折り曲げる工程(C)を示す図。

【図7】眼鏡から取り外した後のサングラスを折り畳んで左右の色付きレンズを上下に重ね合わせる直前の状態を示す図。

【図8】眼鏡に装着したサングラスを眼鏡から取り外す途中の状態を示す図。

【図9】左右一対の色付きレンズを上下に重ね合わせ、眼鏡ケースに格納する直前の状態を示す図。

【図10】従来のサングラスの分解斜視図。

【図11】従来のサングラスを眼鏡に装着した状態を示す斜視図。

【符号の説明】

40 色付きレンズ

41 連結片

41b 連結片のレンズフック部分

42 フックピース

43 ボルト

50 治具

51 ブリッジ

51a 片

51b 孔

53 ベース

54 位置決めバー

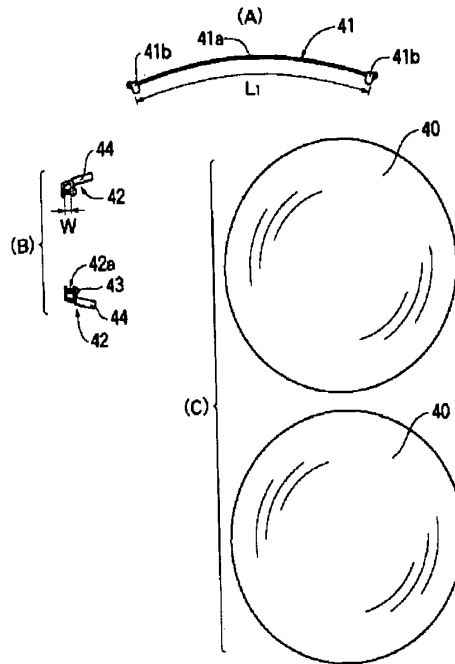
55 クリップバー

56 ピンチバー

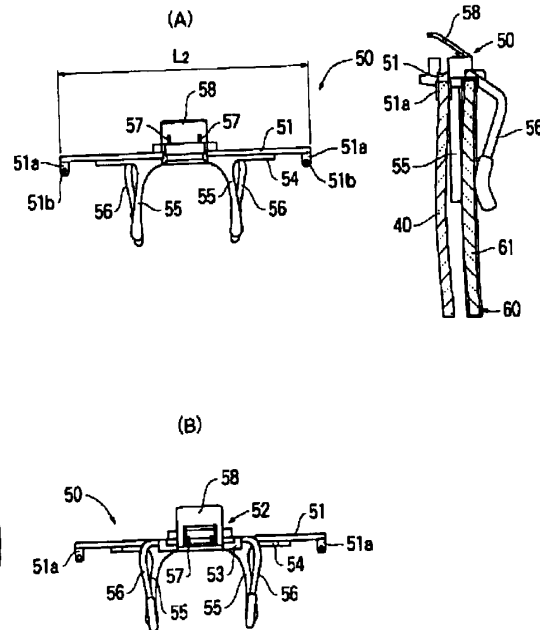
60 眼鏡

10 61 眼鏡のレンズ

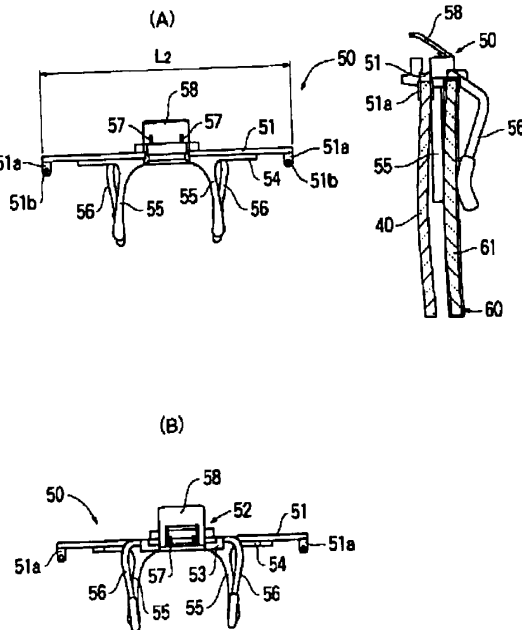
【図1】



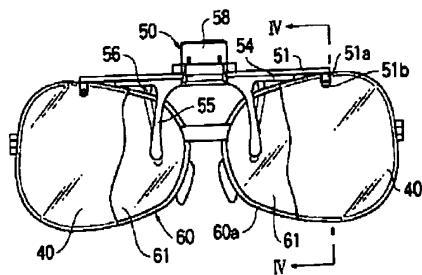
【図2】



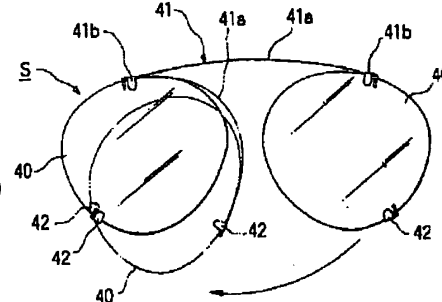
【図4】



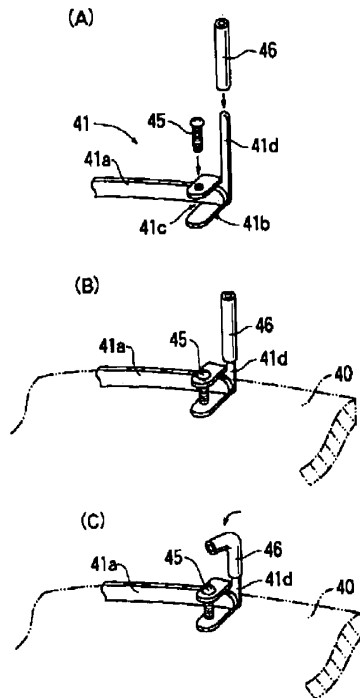
【図3】



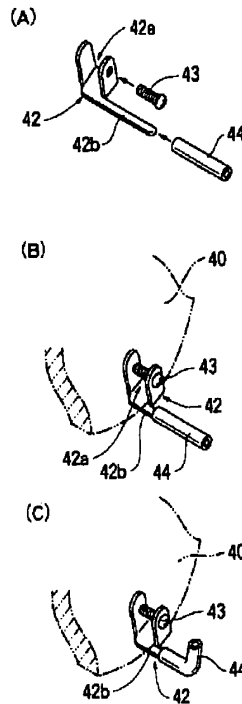
【図7】



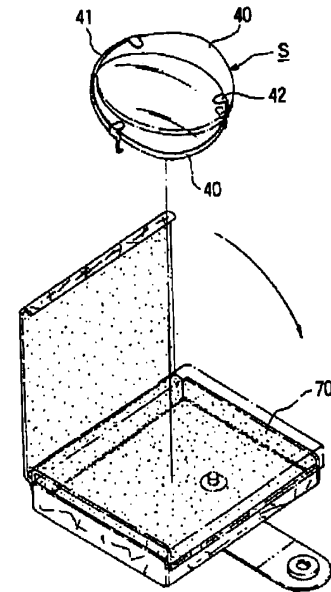
【図5】



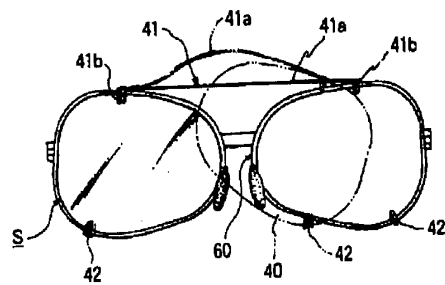
【図6】



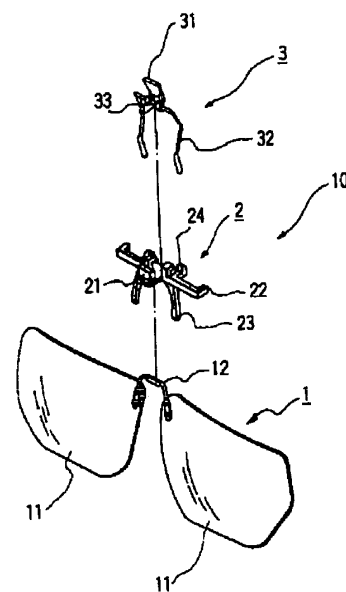
【図9】



【図8】



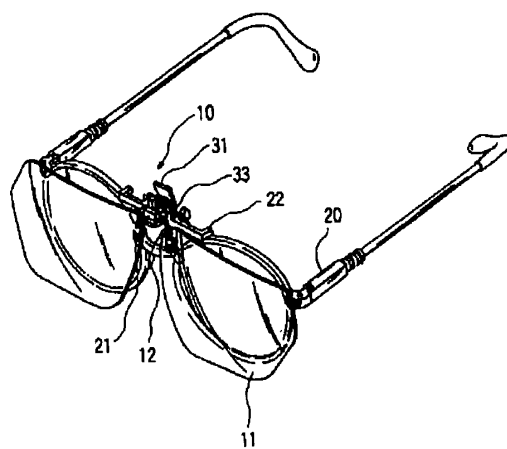
【図10】



(8)

特開平9-138374

【図11】



PAT-NO: JP409138374A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09138374 A
TITLE: GLASSES FOR COMPENSATION OR
CORRECTION USED ON SPECTACLES AND JIG FOR THEIR ASSEMBLY
PUBN-DATE: May 27, 1997

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
SE, HIROYASU

ASSIGNEE-INFORMATION: COUNTRY
NAME N/A
MEIGA GANKYO KIGYO YUGENKOSHI N/A
KK AKO SHOKAI

APPL-NO: JP07277679
APPL-DATE: October 25, 1995

INT-CL (IPC): G02C009/04, G02C007/08 , G02C013/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the glasses which are lightweight and can be folded and prevent the image of spectacles which are used together from being spoiled.

SOLUTION: The sunglasses S have a couple of right and left colored lenses 40, which are cut almost in the same shapes with the lenses of the spectacles, connected together by a connection piece 41. The connection piece 41 has its right-left extending thin and long plate part 41a formed of shape memory alloy

whose transformation temperature is set so that the part 41a restores itself to its original shape at room temperature. The connection piece 41 has lens hook parts 41b at both its right and left ends, and the lens hook parts 41b are fixed to the upper edges of the lenses 40 by using bolts 45. A hook piece 42 is fixed to the outside lower corner part of each lens 40 by using a bolt 43. When the sunglasses S are mounted on the spectacles, the lens hook parts 41b and hook pieces 42 are engaged with the lenses (spectacle frame in concrete) of the spectacles. The sunglasses S detached from the spectacles have the right and left lenses 40 put one over the other by folding the connection piece 41.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO